

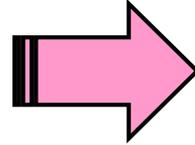
■ 環境影響について

1. はじめに
2. 生活環境に関する予測
3. 自然環境に関する予測

—環境影響について—
1. はじめに

事業を進めるにあたり

淀川左岸線（2期）
淀川南岸線



環境の保全について適切な配慮

最近の状況や知見に基づき…

都市計画変更の内容
近年の自動車排出ガスに係る規制等の動向
など



予測を実施

- 生活環境
- 自然環境

淀川左岸線（2期）の計画諸元

区 間	此花区高見～北区豊崎
道路の延長	約4.3 km
道路の区分	第2種第2級
車 線 数	4車線
設 計 速 度	60km/h
道 路 構 造	地下構造 高架構造
計画交通量	45,800～53,800台/日

2. 生活環境に関する予測

●予測の前提条件

□影響の要因

計画道路：淀川左岸線（2期）〔（仮称）淀川左岸線延伸部の接続を前提〕
淀川南岸線

周辺道路：阪神高速神戸線・池田線、国道2号・176号・176号十三バイパス、
国道423号（新御堂筋）、豊崎鷺洲線 など

⇒ 2つの計画道路が完成した後の将来形を対象

⇒ 走行する自動車、換気所からの影響を予測

□予測地域



2. 生活環境に関する予測

● 予測結果の概要

□ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）

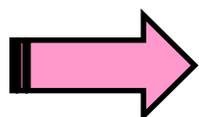
地上1.5mの高さ

予測地域	地上高さ (m)	二酸化窒素：NO ₂ 日平均値の年間98%値 (ppm)	浮遊粒子状物質：SPM 日平均値の年間2%除外値 (mg/m ³)
海老江JCT付近	1.5	0.0443	0.0478
海老江北入口付近		0.0404	0.0474
大淀出入口付近		0.0400	0.0474
豊崎出入口付近※		0.043	0.058
基準値		0.04~0.06ppm 又はそれ以下	0.10mg/m ³ 以下

※ 豊崎出入口付近の予測結果については、（仮称）淀川左岸線延伸部準備書より引用

地上1.5mの高さ ⇒ 基準値以下

沿道の中高層住宅の高さ ⇒ 基準値以下



いずれの地域においても、基準値以下

2. 生活環境に関する予測

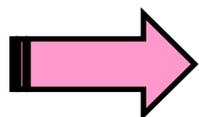
●予測結果の概要

□大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）

換気所からの最大着地濃度

換気所	二酸化窒素：NO ₂ 年平均値 (ppm)	浮遊粒子状物質：SPM 年平均値 (mg/m ³)	換気所からの 距離 (m)
海老江換気所	0.000013	0.000001未満	約800
豊崎換気所※	0.0001	0.00001	約700

※ 豊崎換気所の予測結果については、（仮称）淀川左岸線延伸部準備書より引用



換気所からの影響については、非常に小さい

2. 生活環境に関する予測

● 予測結果の概要

□ 騒音

地上1.2mの高さ

予測地域		地上高さ (m)	予測結果				基準値	
			昼夜間	計画道路		周辺道路		合成値
				淀川 左岸線	淀川 南岸線			
海老江 JCT付近	背後地	1.2	上段 昼間	57	60	56	63	65
				54	54	51	58	60
海老江 北入口 付近	近接 空間			31	65	64	67	70
				28	59	58	62	65
	背後地			31	59	63	65	65
				28	54	57	59	60
大淀 出入口 付近	近接 空間			31	【70】	56	【70】	70
				26	【63】	50	【63】	65
	背後地			31	62	57	64	65
				26	56	51	57	60
豊崎 出入口 付近	近接 空間	61	67	58	69	70		
		57	61	53	63	65		
	背後地	56	62	58	64	65		
		52	56	53	59	60		

予測条件に用いた
計画道路に対する
環境保全措置

【大淀出入口付近】
淀川南岸線の国道176号
交差部の道路ボックス内
・**壁面の吸音処理**



**いずれの地域においても、
基準値以下**

※ 【 】内数値：環境保全措置を講じた場合の値

※ 海老江JCT付近および豊崎出入口付近の予測値については、
素案説明会の際の値から再精査を実施。

2. 生活環境に関する予測

● 予測結果の概要

□ 騒音

沿道の中高層住宅の高さ

予測地域	地上高さ (m)	予測結果				合成値	基準値
		昼夜間	計画道路		周辺道路		
			淀川左岸線	淀川南岸線			
海老江JCT付近	40.2	上段 昼間	62	55	50	63	65
			59	48	46	59	60
海老江北入口付近	29.2		32	【55】	70	【70】	65
			28	【50】	64	【64】	60
大淀出入口付近	22.2	下段 夜間	57	61	66	67	70
			52	55	59	61	65
豊崎出入口付近	50.0		【56】	57	70	【70】	65
			【52】	51	65	【65】	60

予測条件に用いた
計画道路に対する
環境保全措置

【海老江北入口付近】
淀川南岸線

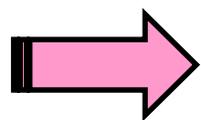
・排水性舗装

【豊崎出入口付近】
淀川左岸線(2期)ランプ

・遮音壁の設置

※ 表中の網掛部は、予測結果が基準値を超過している

※ 【 】内数値：環境保全措置を講じた場合の値



計画道路に環境保全措置

⇒ 計画道路以外の周辺道路による

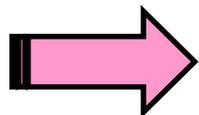
現状の騒音レベルから増加することはない

2. 生活環境に関する予測

● 予測結果の概要

□ 振 動

予測地域	区域区分	振動レベル	
		昼間	夜間
海老江JCT付近	第二種区域	50	48
海老江北入口付近	第二種区域	38	34
大淀出入口付近	第二種区域	49	46
豊崎出入口付近	第一種区域	48	46
基準値	第一種区域	65	60
	第二種区域	70	65



いずれの地域においても、基準値以下

2. 生活環境に関する予測

● 予測結果の概要

□ 低周波音

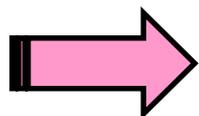
地上1.2mの高さ

予測地域	地上高さ (m)	1~80Hzの範囲の50% 時間率音圧レベル (L_{50})	1~20Hzの範囲のG特性 5%時間率音圧レベル (L_{G5})
海老江JCT付近	1.2	73	80
大淀出入口付近		70	79
豊崎出入口付近		70	78
参考となる値		90	100

※ 計画道路に低周波音の発生要因となる高架構造物が無い海老江北入口付近は、予測を行っていない

地上1.2mの高さ ⇒ 参考となる値以下

沿道の中高層住宅の高さ ⇒ 参考となる値以下



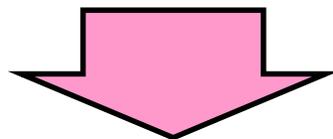
いずれの地域においても、参考となる値以下

2. 生活環境に関する予測

●今後の対応

今回の予測結果

- ◆ 大気質・振動・低周波音は、基準値や参考となる値を下回る
- ◆ 騒音は、基準値を下回る、もしくは、計画道路に環境保全措置を講じることによって、現状レベルから増加することがないことを確認



生活環境に関する現地調査の実施

予測や現地調査結果を踏まえ、具体的な環境保全措置の検討



必要に応じた対策を実施するなど、環境の保全に努める

3. 自然環境に関する予測

●予測の前提条件

□現地調査

計画道路の周辺に生息・生育する動物や植物、生態系について現地調査を実施

環境要素	確認種数	重要な種
動物	哺乳類：3目4科5種	カヤネズミ (1種)
	鳥類：11目28科66種	ヨシガモ、マガモ、ササゴイ等 (28種)
	魚類：11目20科31種	ニホンウナギ、アユ等 (3種)
	昆虫類：15目176科644種	ワスレナグモ、コガネグモ等 (16種)
	底生動物：16目31科40種	ウミゴマスボ、ヤマトシジミ等 (5種)
植物	いかんそく 維管束植物：6科10種	ハマアカザ、ハマエンドウ等 (13種)
生態系	対象道路の周辺には、地域を特徴づける生態系として「淀川のヨシ原・干潟」が存在している。	

⇒ 絶滅危惧種、希少種など「重要な種」の確認

3. 自然環境に関する予測

●予測結果の概要

□影響が大きい重要種等
【動物（鳥類・底生動物）】

■鳥 類	
チュウヒ <i>Circus spilonotus</i>	オオヨシキリ <i>Acrocephalus orientalis</i>
	
大阪府では冬鳥。繁殖期には湖岸のヨシ原に営巣し、湖岸や河川のヨシ原等で餌をとる。冬季には、農耕地、埋立地の草原でも餌をとる。主にネズミ類を捕食するが、鳥類や魚類、昆虫等を捕食することもある。	夏鳥。ため池、河川の中下流、海岸の埋立地、休耕田など平地に飛達するヨシ原に営巣し餌をとる。昆虫やクモなどを採食する。

■底生動物
カワザンショウガイ <i>Assiminea japonica</i>

本州・四国・九州に広く分布する。河口周辺の汽水域やその直上の淡水域、内湾奥部の淡水の影響する川岸のヨシ帯に生息し、潮の引いた底床にまき散らしたようにいる。他の種類に比べて物陰に隠れないでいることが多い。

3. 自然環境に関する予測

●予測結果の概要

□影響が大きい重要種等

【動物（昆虫類）】

■昆虫類		
オツネトンボ <i>Sympecma paedisca</i>	コガムシ <i>Hydrochara affinis</i>	カコウコモリグモ <i>Pardosa nojimai</i>
		
平地や低山地の挺水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水、溝川等に生息する。水際植物の水面上に張り出した葉や水に浮かんだ植物の枯れ茎、朽ち木等に産卵する。	平地の池沼、水田などにすむ。成虫は水草、藻等を食べるが、幼虫は強い食肉性をもち、他の虫を食べる。	河口付近のヨシの草間に生息する。

3. 自然環境に関する予測

● 予測結果の概要

□ 影響が大きい重要種等

【植物】

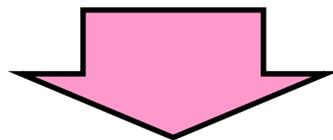
■ 植 物		
オガルカヤ <i>Cymbopogon tortilis var. goeringii</i>	シオクグ <i>Carex scabrifolia</i>	カモノハシ <i>Ischaemum aristatum var. glaucum</i>
		
直立して高さ1m内外になり、やや株立ちになる多年草。葉は線形で、幅3～5mm。茎はやや硬くて平滑で、多数の分花序をつけて、長さ20～40cmの円柱形の花序を作る。花期は8～11月。。	海岸の塩水の出入りする泥地にはえる多年草。茎は高さ30～50cm、やや細いが丈夫で、基部の鞘は葉身がない。果胞は長楕円形で長さ6～8cm、4～7月に熟す。	湿地に生育する高さ30～70cmになる無毛の多年草で、基部はときに地をはって分枝する。葉は線形。花期は7～11月で、小穂は長さ5～6mm。

3. 自然環境に関する予測

●今後の対応

今回の予測結果

- ◆ 計画道路の周辺に生息・生育する動物や植物、生態系について、現地調査を行い、重要な種を確認。
- ◆ 計画道路による直接改変など、事業による影響が大きいと予測される重要な種および重要な生態系を把握。



専門家の意見をいただきながら、予備実験の実施など
具体的な環境保全措置の検討



必要に応じた対策を実施するなど、環境の保全に努める

— 環境影響について —

淀川左岸線（2期）事業に係る環境影響に関する、今回の予測や保全措置の検討結果等から、環境の保全についての適正な配慮を行いながら事業を実施することができるものと考えております。

今後、環境影響の予測に加えて、大気質や騒音などの生活環境の現地調査や、自然環境の保全に向けた予備実験等の調査・検討を実施し、引き続き、環境の保全に努めながら事業を進めてまいります。

本事業へのご理解、ご協力のほど
よろしく申し上げます